



市民のひろば

市民の皆さんからの投稿作品をご紹介します！

みんな注目！

[投稿者]

青年海外協力隊
森下真美

ケニアの子どもたちに教育を！



はじめまして。私は、青年海外協力隊としてケニアで活動している森下真美です。今日は、ケニアの気候や文化、私の活動内容などについてお知らせします。

●ケニアの文化と気候

アフリカ大陸の東に位置するケニア共和国。人口は約4700万人と日本の約半分。土地面積は、日本の約1.5倍もあります。赤道直下にある国ですが、首都ナイロビは標高1795mと高く、平均気温17～20度と年間を通して過ごしやすい気候です。季節は、乾季と雨季に分かれ、ちょうど8月は雨期真っ只中です。労働人口の60%が農業に従事し、主な農業作物としてコーヒーがあります。



▲サファリにいるゾウたち

言語は英語から、スワヒリ語、民族語まで使います。日常的にどの言語も使われており、日本では、ほとんどの人が日本語を使うことを話すと、文化の違いに驚かれます。民族はキクユ族、ルオ族、カレンジン族、そして日本でも有名なマサイ族など、さまざまな民族がいます。

そして、ケニアの観光といえば、サファリ。サファリカーに乗って、ライオン、キリン、ゾウなどたくさんの動物が暮らしている場所にお邪魔して、野生の姿を見ることができます。

●ケニアでのボランティア活動

首都ナイロビから約2時間半北上したところにあるニエリリマンドホームという少年一時拘置所が私の配属先です。そこには7～17歳ぐらいの子どもが、常に30名前後拘置されています。ストリートチルドレンとして保護された子どもや、罪を犯した子どもが裁判の判決を待つ間、ここで過ごします。子どもたちはベッドで安心して寝ること、身の清潔を保つこと、ご飯を3食食べること、良いマナーを身に付けることなど基本的な生活スキルを、食事当番や掃除当番などにより、習慣付けていきます。

しかし、拘置期間が2年以上と長期に渡る子どもがいるにも関わらず、彼らに教育を受ける機会が提供されていませんでした。そこで、教育を提供することが私の活動内容です。2016年10月の終わりから、少しずつできることをやってきて、今では、算数のプリントを使った学習、本を読む時間のライブラリー、職業紹介本を使ったキャリア教育、心と体の健康を目指したスポーツ、学ぶことへの意欲を高めるワークショップを実践しています。



▲森下さん(左から2番目)と現地スタッフら

今後の課題は、「いかに現地スタッフだけで子どもたちへの教育ができるようにしていくか」。ボランティアなしでも安定した教育の提供が行われ、未来を担う子どもたちが学ぶ機会を継続的に得ることができる仕組みを目指しています。